

1. 科目名（単位 数）	国語（書写を含む）（小）（2 単位）	3. 科目番号	EDEL2301 SJMP2381
2. 授業担当教員	駒井 隆治		
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語（日本語）に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。		
8. 学習目標	国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。 1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。 3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。 4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。		
9. アサシメント （宿題）及びレポ ート課題	国語の学習では実技を中心に行う。ノート等の紙・鉛筆（B、2B）を用意して授業を受けること。 1. 毎回、授業終了前に授業内容についてのリアクションペーパーを提出する。 2. 作文（小論文）の実作を 2 回提出する。 3. 期末レポート（1,000 字程度）を提出する。（期末試験を実施しない。） 【注】欠席及び公休等で受講できなかった場合、当日の資料を熟読し、次回まで 200 字程度のコメントを提出する。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 ① 長谷川祥子『はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説』3 刷 明治図書、2022 ② 江守賢治『漢字筆順ハンドブック 第四版』三省堂、2021 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 国語編』東洋館出版、2018 この他、毎回の授業でシートや資料等を提示する。		
11. 成績評価の規準 と評価の方法	○成績評価の規準 1 日本語（国語）の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができたか。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身につけることができたか。 3 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けてこれからの国語力や国語教育について考えることができたか。 ○評価の方法 授業への積極的参加態度 4 0 % 宿題、レポート、小テスト等 4 0 % 期末試験 2 0 % 上記のほか、本学の規定に定められている 3 / 4 以上の出席が単位の条件である。		
12. 受講生への メッセージ	国語科教育の目的は、児童生徒に社会生活で通用する言葉の力をつけることです。そのためには、指導者として国語科の授業の方法を身につける必要があります。この授業では、小学校の教科書教材を取り上げて模擬授業を行うことにより、よい発問やよい話し合いの仕方を体験的に学びます。子どもに対する深い理解に基づく指導方法を身につけ、授業実践に生かす積極的な学修を期待します。		
13. オフィスアワー	随時授業時間内で知らせます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	【オリエンテーション】講義の概要や成績評価方法等を知る。筆順の基本的知識を理解する。（テキスト②使用）	事前学習	国語を学ぶ目的を明確にもつ。
		事後学習	筆順の基本的な原則を整理する。
第 2 回	○言葉と論理の関係を調べ、確認する。～論理的な文章の種類を理解する。	事前学習	配布されたテキストで予習する。
		事後学習	要点をとらえる技法を習得する。
第 3 回	○文章の読解の方法を研究する。一範読と斉読の違いを確かめる。	事前学習	低・中学年の説明的文章の教材を読む。
		事後学習	低・中学年の説明的文章の特徴をまとめる。
第 4 回	○説明的文章を「読む」教材（高学年）を研究する。	事前学習	高学年の説明的文章の教材を読む。
		事後学習	高学年の説明的文章の特徴をまとめる
第 5 回	○「書く」教材（低・中学年）を研究する。	事前学習	「書く」教材を読み、課題をもつ。
		事後学習	低中学年の小作文を実作する。
第 6 回	○「書く」教材（高学年）を研究する。	事前学習	「書く」教材を読み、課題をもつ。
		事後学習	高学年の小論文を実作する。
第 7 回	○説明的文章を「読む」と「書く」ことの関連につ	事前学習	言葉の理解と表現について調べる。

	いて研究する。	事後学習	理解と表現の関連についてまとめる。
第 8 回	○書写（硬筆）の教材を研究する。（テキスト②使用）	事前学習	書写教材（硬筆）の指導の課題を考える。
		事後学習	書写教材（硬筆）を実作し、完成する。
第 9 回	○書写（毛筆）の教材を研究する。	事前学習	書写教材（毛筆）の指導の課題を考える。
		事後学習	書写教材（毛筆）を実作し、完成する。
第 1 0 回	○音声言語としての「話す・聞く」活動の実際について研究する。	事前学習	スピーチの準備をする。
		事後学習	スピーチの課題をもつ。
第 1 1 回	○「話す・聞く」活動～スピーチを実演する。	事前学習	スピーチ用のメモに書いて練習しておく。
		事後学習	スピーチについて評価する。
第 1 2 回	○物語文の授業のための教材研究をする。	事前学習	低中学年の物語教材を読む。
		事後学習	物語文指導の基本技術を理解する。
第 1 3 回	○物語文（低中学年）の教材研究をする。	事前学習	高学年の物語教材を読む。
		事後学習	高学年の物語文の発問のポイントを理解する
第 1 4 回	○国語科の評価の観点を理解し、学習指導案の書き方を学ぶ。	事前学習	学習指導案の例を調べる。
		事後学習	物語文の学習指導案を作成する。
第 1 5 回	○物語文の模擬授業を体験する。	事前学習	模擬授業の準備をする。
		事後学習	模擬授業からの学びをまとめる。